

『これ掴いてや、お前はあんれ淨るりを語てると思てるのんか、豚がぜん息病ふた様にオガ／＼譯の解らん事云ふて、淨るりの會やなんて能ふ云ふナ。』

『いや俺いは往く氣や無かつたんやが、清やんが……。』

『清やん。清八やかいナ。何であんな者と交際ふね。友達も仰山有るけど清八や見たいな嫌やな奴あれへん。是と云ふ商賣も無い癖に、大きな風呂敷肩へ掛けやがつて、ブラ／＼してやる、あんな奴に限つて土盗人しよるね。』

『オイ、そんな無茶云ひないナ。』

『云ふたら何やいな。人の留守考えて、温順しい仕事してる物を誘惑に來やがつて、も少し早ふ歸つて來て清八やが居やがつたら、向ふ脛へ嚙り附いたるのに。』

『そんなら嚙り附いたりいな。お前の背後に佇てるがな。』

『阿呆。それを何で早ふ云わんのやいな。まア清はんお來でやす、暑いや無いか、此暑いのにチャンと着物着て他人行儀な。裸に成てやつたら何ふやね、ほんまに毎時でも貴方の事云ふて褒めてんねし甲斐性者やさかい貴方處のお芳さんは幸福や、宅ら見なはれ、甲斐性が無い物や依て年中バタ／＼働いて貧乏のし續け、ちツと清はんを見習ひなはれ云ふてるのやけど迎も眞似もよふ仕やへんワ、まア肩拔ぎなはれ云ふてるのに。井戸水の冷いので手拭絞つて來る依て汗拭いてやつたら何ふや。氷云ふ

て來ふか、西瓜の方が良えか、柳影冷して奴豆腐で一杯飲でやつたら何ふや。』

『フオー。いやもウ其辨茶羅丈けで満腹や。併しなア姐貴、大概の事は辛抱するけどな。盗人するてな事は云わんと置いてんか。』

『まア清はん勘忍しとくなはれや。彼様云わんと内の人が仕事せえへん』

『亭主が仕事せん依てに云ウて、人を盗人にするのは無茶やがナ。まア其んな事は宜えとして、今喜イ公が云ひよつた淨るりの會と云ふのは嘘や。實は此間町内の風呂屋が休みで、裏町の風呂へ往た處が喜イ公に逢ふたんや、まア一處に去なふか云ふて連らつて戻つて來ると甚い人集りや、何や知らんと覗いて見たら肉屋の丑公と米屋のよね公が喧嘩してよるやないか。友達同士や放つとけんがナ、俺いと喜イ公が仲へ這入てまア／＼と其場は納めたが、友達同士いつまでも赤目釣り合ふてるのは具合が悪いがナ、まア今晚南の小料理屋で仲直りと云ふ事に成たんやが、先方の云ふのには最初口利いて貰ふたんが清はんと喜伊さんやね依て、是非共二人が其場席へ坐て盃を持て貰ひ度いと云ひよるのや。まア聴けば尤もなので喜伊公を呼びに來た處が、今日は鼻が留守なんで出られんと云ふねが、お前に顔を出して貰はん事には話が圓ふ納まらん、姐貴には後で俺いから話をする依つて云ふて、マ無理に着物を着替えて貰ふた處やね。恰度良え處へ歸て呉れた、長い間や無いね、ホンの二、三時間俺いに貸して、なあウンと云ふて貸してんか』